

TOTO

リモコンフラッシュバルブ

TV140型
TV740型
TV840型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明のうえ、この施工説明書をお渡しください。

お客様へ この施工説明書にはメンテナンス要領を記載していますので、大切に保存しておいてください。

1

安全上の注意

(安全のために必ずお守りください)

操作弁部の施工誤差対応、かさ上げ部材(別売)取付方法掲載→ ⑦「別売品取付要領」を参照してください。
フラッシュバルブ本体の継手部は露出・隠ぺいタイプで異なります。→ ④「部品の確認」を参照してください。

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があります。

	は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

注意	
必ず実行	めっきされた部分にモーターレンチなどを用いる場合は、めっきを傷付けないように必ず布片をはさむ めっきがはがれ、けがをするおそれがあります。
	空気の混入が考えられる給水配管には必ず空気抜き弁を取り付け、空気が配管内に残らないようにする 新築・改修工事後や、水道断水復旧後に、大量の空気と水が混入して器具に供給されると、器具の破損や故障の原因となり、けがをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

注意		
	強い力や衝撃を与えない 破損して、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	
	本体の通水路には抵抗となるような部材(オリフィスなど)をつけない 洗浄機能への悪影響や水漏れのおそれがあります。	
	この説明書に記載された項目以外は、分解・改造しない 破損して、けがをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	
	フィルターの掃除をする際は、いきなりフィルターをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う 水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	

2 仕様

タイプ	節水形	普通形
		TV740型・TV840型
洗浄水量調節範囲	8~13L	— (水量調節ねじ有り)
工場出荷時洗浄水量	10L	13L
給水圧力	最低必要水圧(流動時)	0.07MPa
	最高水圧(静止時)	0.75MPa
給水接続部	25A(ねじサイズ: R1またはRc1)	
使用温度範囲	1~40℃	
使用水	水道水・井戸水・再生水・雑用水(注)	TV840型
	水道水のみ	上記以外の品番
用途	パブリック大便器洗浄用	

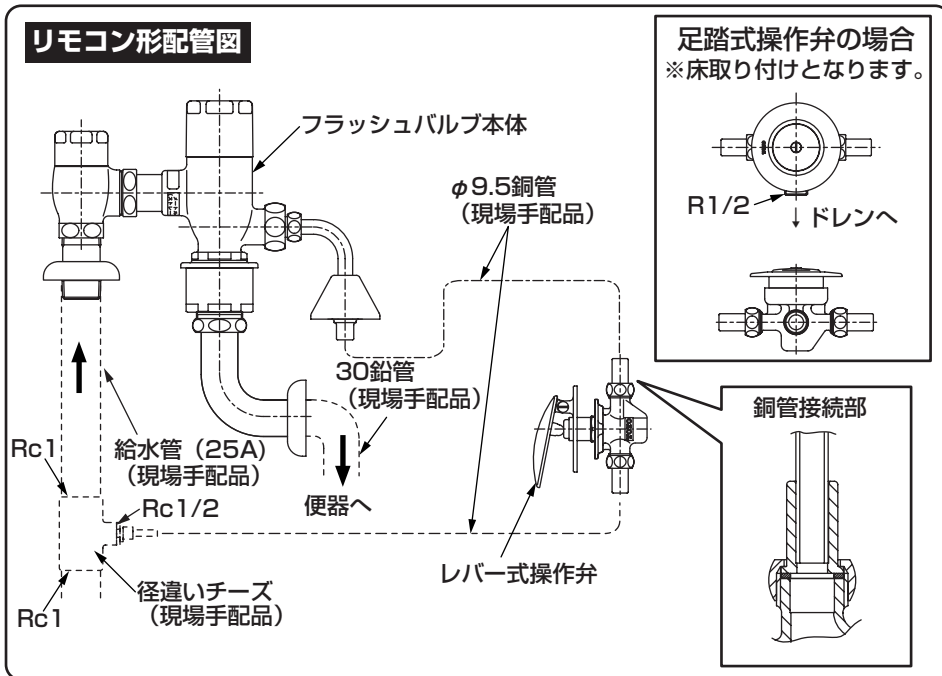
(注) 井戸水・再生水・雑用水は使用できる水質範囲があります。詳しくは下記アドレスのホームページをご参照ください。 ホームページアドレス: <http://www.com-et.com/kiki/>

3 取り付け前に

- 施工前には別売の操作弁部および下記部品(現場手配)が必要です。

リモコン形配管図を参照のうえ、施工前に用意してください。

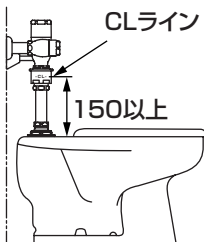
- ・φ9.5銅管
- ・径違いチーズ
- ・30鉛管
- ・給水管(25A)



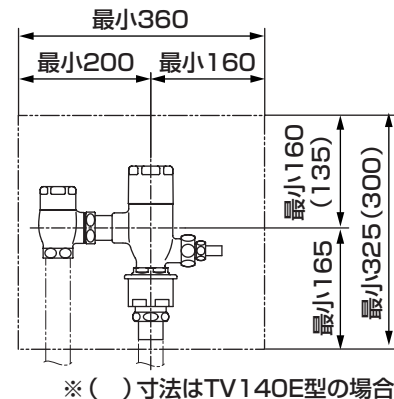
- フラッシュバルブ本体は、水量調節ねじが必ず上にくるように垂直に取り付けてください。横向きになると、正常な機能を発揮しないことがあります。

- バキュームブレーカー側面のCLラインから便器のあふれ縁までは150mm以上を確保してください。(右図参照)

※CL (Critical Installation Level) とはバキュームブレーカーの空気吸入シート面の位置を示す線です。



- 本体を壁内などに設置する場合は、保守点検のために点検口を必ず設けてください。(下図参照)



- 梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性がありますが、商品には問題ありません。

4

部品の確認

次の部品があることを確認してください。

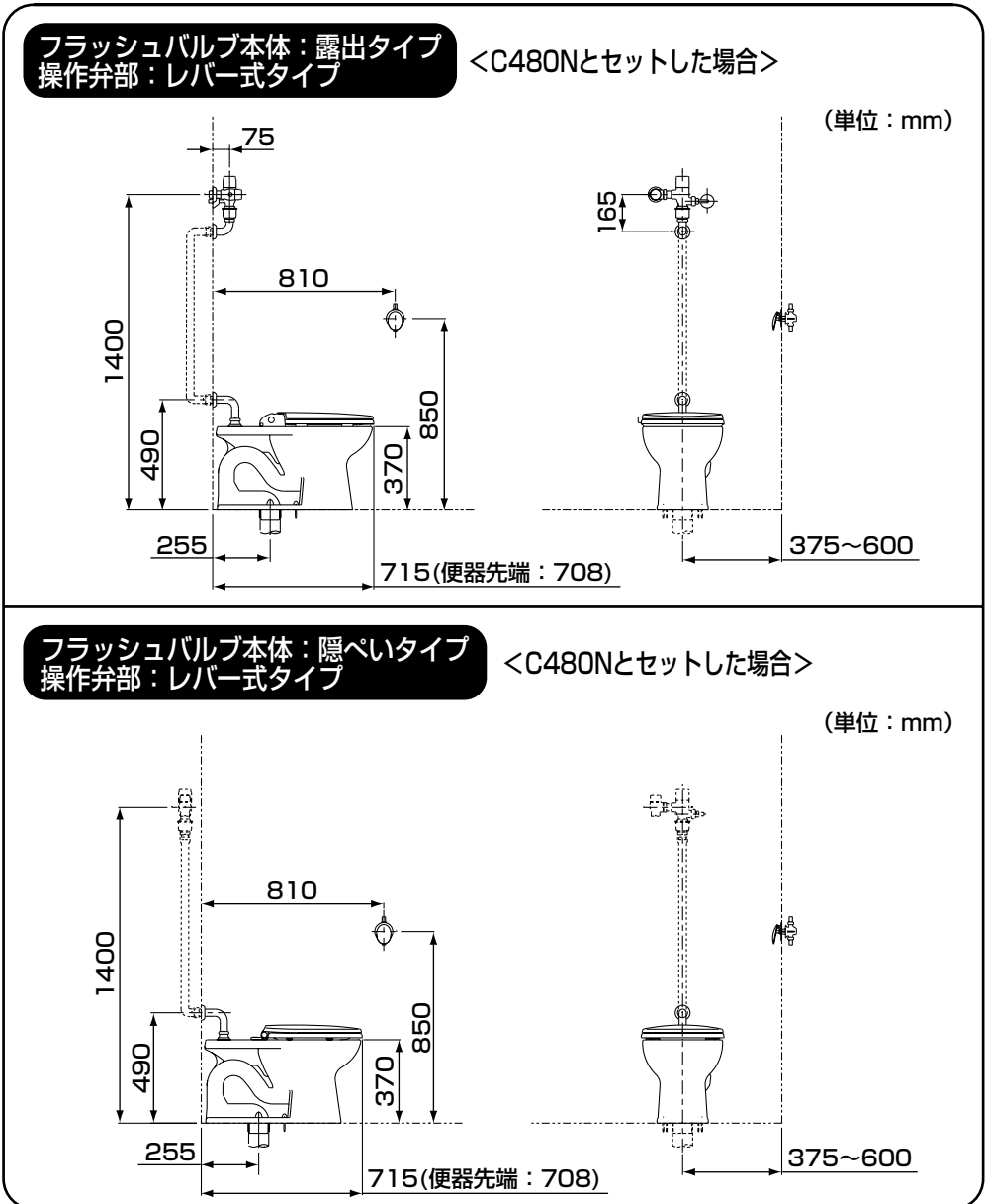
フラッシュバルブ本体	
露出タイプ	隠ぺいタイプ
<p>止水栓カバー (節水タイプの場合のみ) 本体カバー (節水タイプの場合のみ)</p> <p>開閉ねじ 水量調節ねじ</p> <p>止水栓 フラッシュバルブ本体</p> <p>給水管 バキュームブレーカー</p> <p>カバー 連結管</p> <p>カバー</p> <p>カバー</p> <p>排水管 袋ナット (パッキン、パッキンガイド、テーパリング) 継手</p>	<p>止水栓カバー (節水タイプの場合のみ) 本体カバー (節水タイプの場合のみ)</p> <p>開閉ねじ 水量調節ねじ</p> <p>止水栓 継手部</p> <p>フラッシュバルブ本体</p> <p>バキュームブレーカー</p> <p>排水管</p>
操作弁部	
レバー式操作弁	足踏式操作弁
<p>レバーハンドル</p> <p>本体</p> <p>継手</p> <p>パッキン (2個)</p> <p>袋ナット (2個)</p> <p>継手 (2個)</p> <p>養生カバー</p> <p>ねじ (2個)</p>	<p>本体</p> <p>養生カバー</p> <p>袋ナット (2個)</p> <p>継手 (2個)</p> <p>パッキン (2個)</p>
<p>必ずお客様にお渡しください</p> <p>取扱説明書</p> <p>施工説明書</p>	

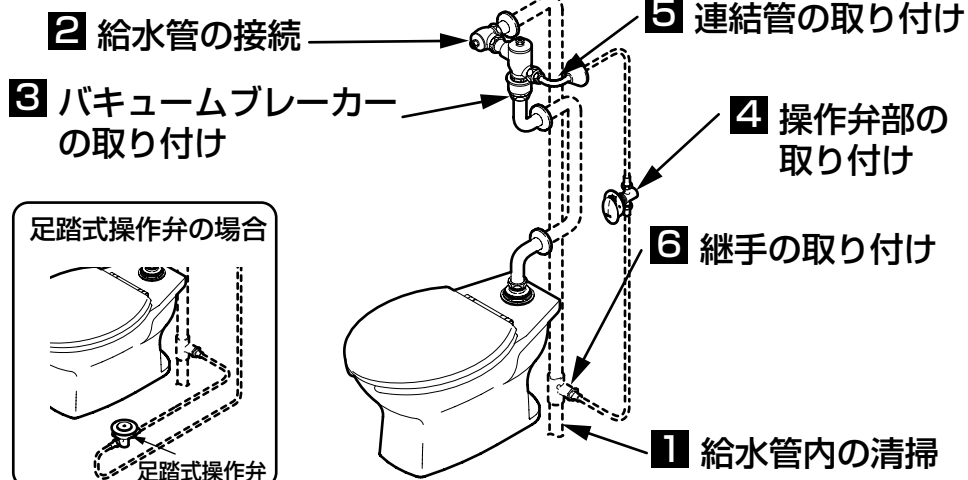
※操作弁部はTS74型の場合のみ同梱です。その他の品番は、操作弁部を別途手配してください。
 ※再生水仕様の場合は、操作弁なども再生水仕様品をご使用ください。井戸水・再生水・雑用水は使用できる水質範囲があります。詳しくは下記アドレスのホームページをご参照ください。
 ホームページアドレス：<http://www.com-et.com/kiki/>
 ※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

5

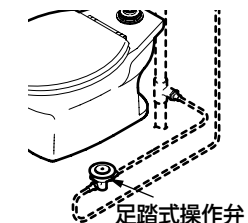
完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。





足踏式操作弁の場合



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

1 給水管内の清掃

取り付ける前に **必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

2 給水管の接続

①給水管（現場手配品：25A）を所定の位置に取り付け、径違いチーズ（現場手配品）を取り付ける。

露出タイプの場合

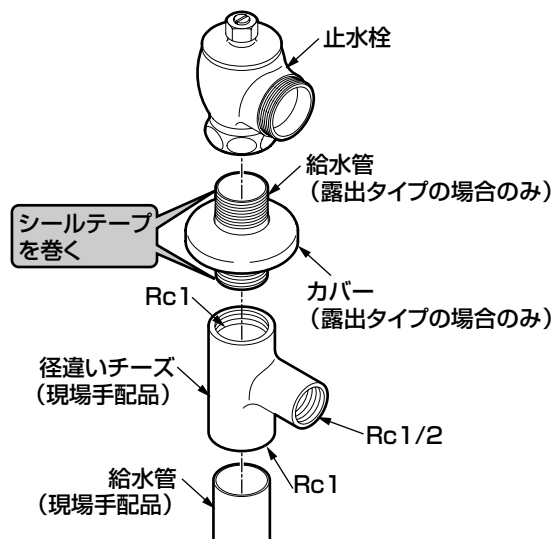
②付属の給水管にカバーを挿入し、シールテープを巻き、①で取り付けた給水管にねじ込む。

③止水栓をフラッシュバルブ本体から取り外し、②で取り付けた給水管に取り付ける。

この時、袋ナット部のパッキンを紛失しないように注意してください。

隠ぺいタイプの場合

②止水栓をフラッシュバルブ本体から取り外し、①で取り付けた給水管に取り付ける。



3 バキュームブレーカーの取り付け

①洗浄管（現場手配品：φ30鉛管）を所定の位置に取り付ける。

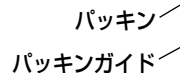
②バキュームブレーカーをフラッシュバルブ本体に取り付ける。

③付属の排水管にバキュームブレーカーの袋ナット・パッキンガイド・パッキンを挿入し、バキュームブレーカーに取り付け、袋ナットで締め付ける。

注意

パッキンガイドの向きと順番を間違えると水漏れのおそれがあります。

パッキンガイドの向きに注意してください。



④ 露出タイプの場合のみ

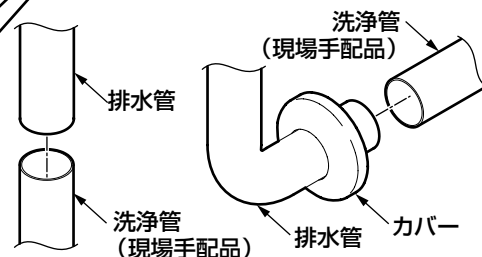
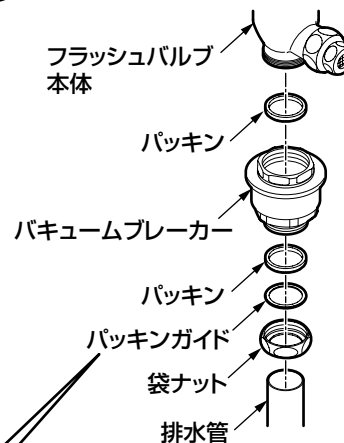
付属の排水管にカバーを挿入する。

⑤付属の排水管を①で取り付けた洗浄管に取り付ける。
※排水管が長い場合は切断し、調節してください。

⑥フラッシュバルブ本体の接続部にパッキンを入れ、止水栓を取り付け、袋ナットで締め付ける。

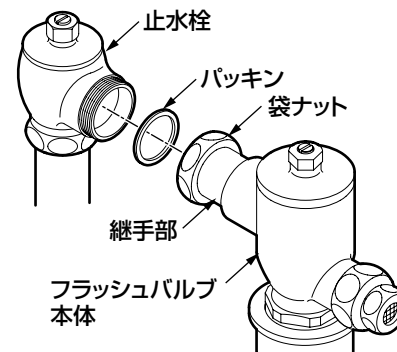
注意

必ずパッキンが入っていることを確認してください。



隠ぺいタイプの場合

露出タイプの場合



裏面へつづく

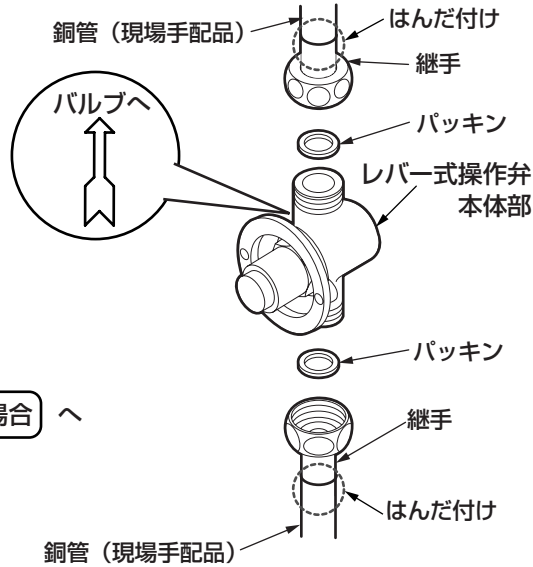
4 操作弁部の取り付け

レバー式操作弁の場合

①継手と銅管（現場手配品：φ9.5銅管）を、はんだ付けなどで接続する。

②レバー式操作弁本体部の給水方向（本体矢印に注意）を間違えないように継手を接続する。

※湿式施工の場合は → **湿式施工の場合** へ

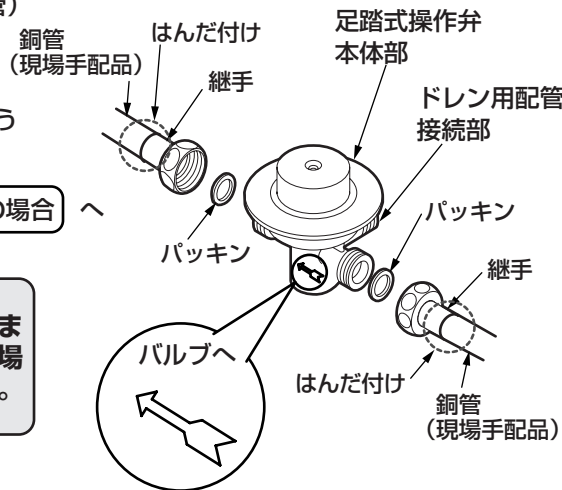


足踏式操作弁の場合

①継手と銅管（現場手配品：φ9.5銅管）をはんだ付けなどで接続する。

②足踏式操作弁本体部の給水方向（本体矢印に注意）を間違えないように継手を接続する。

※湿式施工の場合は → **湿式施工の場合** へ



注意

足踏式は水抜接続部を設けていますので、必ずドレン用配管（現場手配品）を取り付けてください。

湿式施工の場合

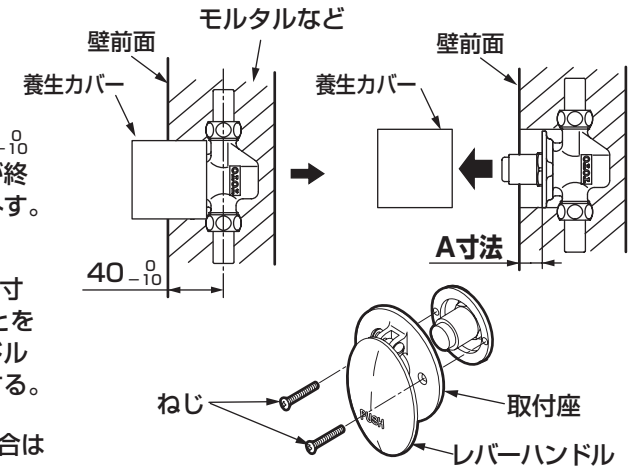
●操作弁本体に付属の養生カバーを取り付け、給水接続部が埋まる程度にモルタルなどで固定してください。

レバー式操作弁の場合

①壁前面と給水心の寸法が 40_{-10}^0 の範囲になるように仕上げが終わったあと、養生カバーを外す。

②A寸法（壁前面と本体上面の寸法）が7~17mmであることを確認したあと、レバーハンドル取付座を付属のねじで固定する。

※A寸法が17mmを超えた場合は → **7-1 「別売品取付要領」**へ

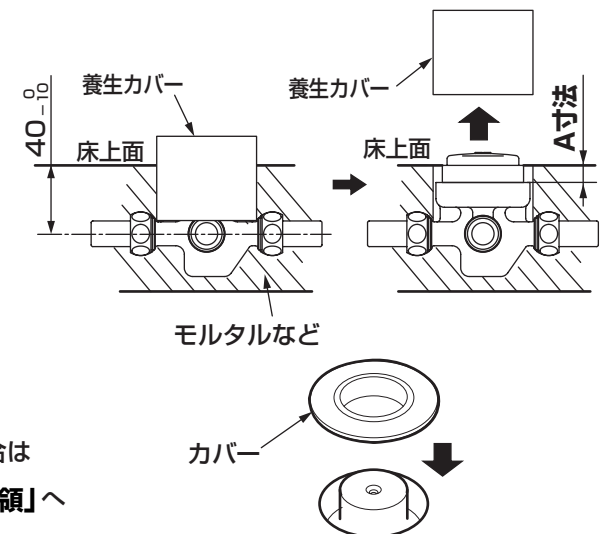


足踏式操作弁の場合

①床上面と給水心の寸法が、 40_{-10}^0 の範囲になるように仕上げが終わったあと、養生カバーを外す。

②A寸法（床上面と本体上面の寸法）が0~10mmであることを確認したあと、カバーを取り付ける。

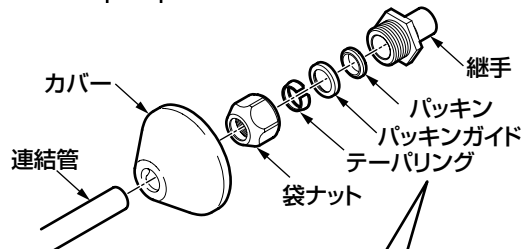
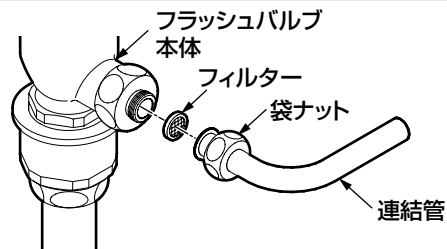
※A寸法が10mmを超えた場合は → **7-2 「別売品取付要領」**へ



5 連結管の取り付け

露出タイプの場合

- ①フラッシュバルブ本体から袋ナットを取り外し、連結管を通し、再度フラッシュバルブ本体にフィルター・袋ナットを取り付ける。
- ②連結管にカバー・袋ナット・テーパリング・パッキンガイド・パッキンを挿入する。

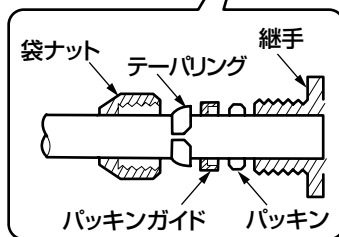
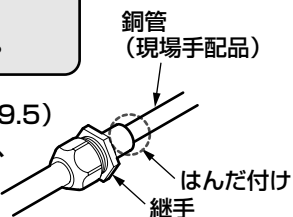


注意

重要

袋ナット・テーパリング・パッキンガイド・パッキンの順番、向きを間違えないように接続してください。
水漏れのおそれがあります。

- ③継手と銅管（現場手配品）をはんだ付けなどで接続し、②の袋ナットに取り付ける。

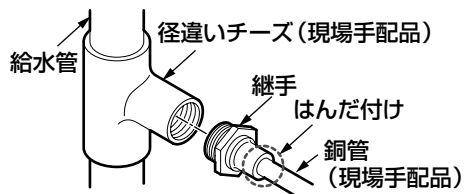


隠ぺいタイプの場合

- ①フラッシュバルブ本体から袋ナットを取り外す。
- ②袋ナットを継手を通し、継手と銅管（現場手配品：φ9.5）をはんだ付けなどで接続する。
- ③再度フラッシュバルブ本体にフィルター、継手、袋ナットを取り付ける。

6 継手の取り付け

- ①②で取り付けした径違いチーズに継手（操作弁部付属品）をねじ込む。
- ②継手と④で取り付けした銅管をはんだ付けなどで接続する。



注意

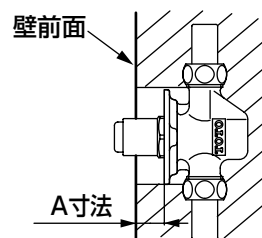
銅管（現場手配品）は、動かないように市販のパイプクランプなどで固定してください。

別売品取付要領

壁前面または床上面と給水心の寸法が深くなった場合

- 「足踏ボタンが低すぎた!!」
 - 「押ボタンの出代が少なく、レバーが押せない!!」
- このような場合は下記のA寸法を確認したあと、別途別売品をご購入ください。

レバー式操作弁の場合

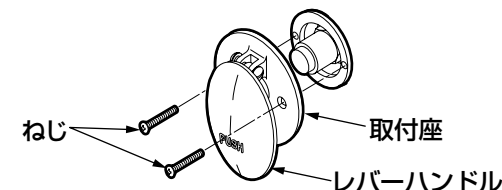


別売品選定表

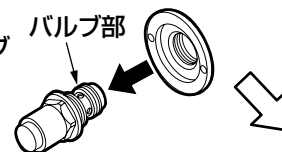
A寸法	品番
18~27mm	TH540-1
28~37mm	TH540-2
38~47mm	TH540-3

<取付要領>

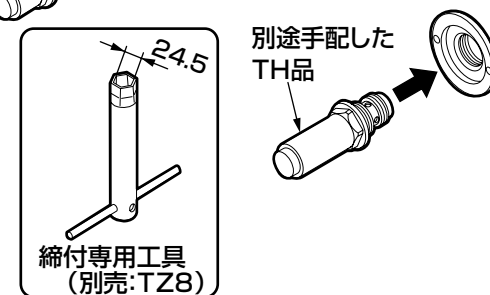
- ①レバーハンドル取付座を固定しているねじを外し、レバーハンドルを外す。



- ②締付専用工具（別売:TZ8）にてバルブ部を外す。



- ③別途手配したTH品を締付専用工具（別売:TZ8）で確実に締め付ける。



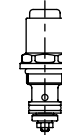
この時、配管部に無理な力がかからないように注意してください。また、Oリング部のゴミカミなど十分注意してください。

- ④ ①と逆の手順でレバーハンドル取付座を取り付ける。

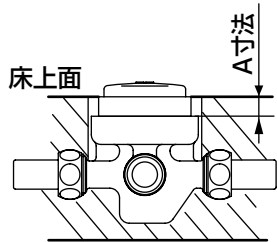
メンテナンスについて

- ※メンテナンスのためにバルブ部を交換する際は、上記A寸法を確認し、「別売品選定表」により品番を選定して、購入してください。
- ※A寸法が7~17mmの場合はTH540を手配し、交換してください。
- ※尚、交換には締付専用工具（別売:TZ8）が必要です。

TH540



足踏式操作弁の場合

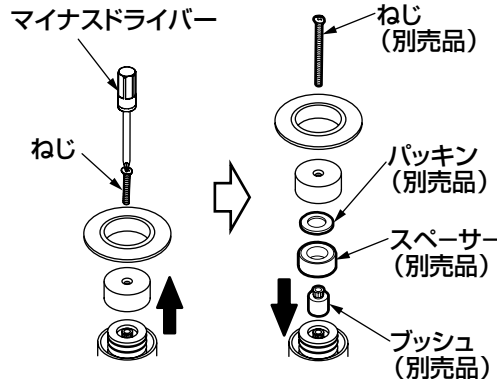


別売品選定表

A寸法	品番
11~20mm	TH542-1
21~30mm	TH542-2
31~40mm	TH542-3

<取付要領>

- ① マイナスドライバーでねじを外す。
- ② 別売品の部材を右図のようにセットする。
- ③ 小ねじを別売品同梱の小ねじと組み替えてボタン部を押え込み、少し左右に動かして確実に入っていることを確認し、マイナスドライバーで小ねじをしっかりとねじ込む。



メンテナンスについて

- ※ メンテナンスのために足踏式操作弁のバルブ部を交換する際は、TH542を手配してください。
- ※ 交換には締付専用工具 (別売:TZ22) が必要です。



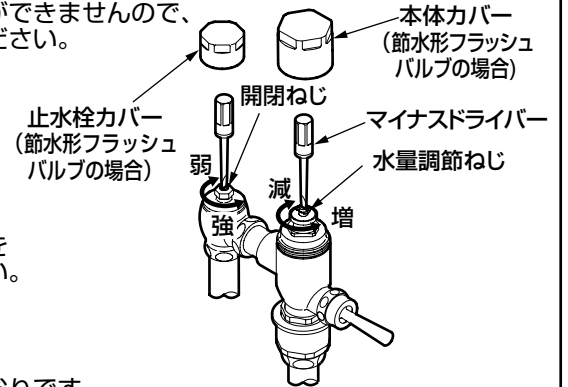
施工後の調節

水勢および吐水量の調節

水勢の調節

フラッシュバルブは水圧の高低によって水勢が変わります。水勢が強すぎると水飛びを生じたり、洗浄音が高くなったりします。また水勢が弱すぎると、十分な洗浄ができませんので、止水栓の開閉ねじで調節を行ってください。

時計回り…水勢が弱くなります。
反時計回り…水勢が強くなります。
 ※節水形フラッシュバルブは止水栓カバーを取り外すと開閉ねじがあります。



水量の調節

水量の調節をするときは本体カバーを外し、水量調節ねじで行ってください。

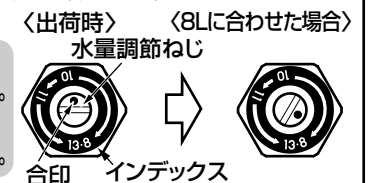
時計回り…吐水量が減少します。
反時計回り…吐水量が増加します。

- 節水形フラッシュバルブの場合
 大便器の標準洗浄水量は次のとおりです。

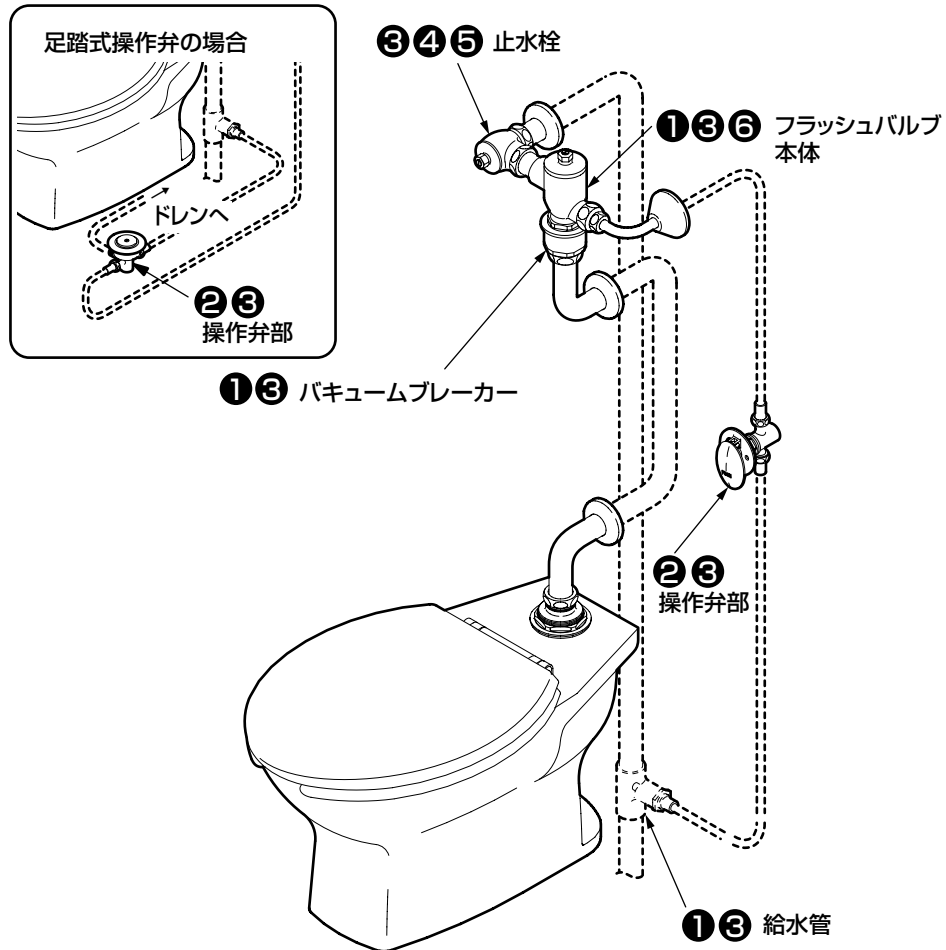
大便器の品番 (TOTO品番)	腰掛便器			和風便器	
	C550SU・C426R・C480AN C480N・C743PVN CS480CN・CS140・P	C21N CS210CN	C111	C755系 C756系	C750系
標準洗浄水量	8L	10L	13L	8L	11L
工場出荷時の洗浄水量	10L (TV740型・TV840型)				

大便器の洗浄様式に合わせて、次の要領で吐水量を調節してください。

- ① 本体カバーを取り外す。
 ※ 出荷時は右図のようにセットされていますので、水量調節ねじを矢印方向に回転させインデックスに表示の吐水量を示す数字に合印を合わせてください。
 ※ インデックスに表示されている数字は、吐水量の調節が容易にできるように表示した目安です。したがって正確な吐水量を表した数字ではありません。
- ② 合印を合わせたあと、ハンドルを操作して確実に洗浄できるか確認する。
- ③ 洗浄の確認が終わったら本体カバーをねじ込み、十分締め付ける。
 ※ 標準調節吐水量で洗浄が不完全な場合は、水量調節ねじで、吐水量をさらに適正に調節してください。
 ※ 洗浄水量調節中に現在の設定水量位置を見失ったときは一度調節ねじを時計回りに止まるまで(全閉)回してください。この位置から反時計回りに回して最初の「10」にマークを合わせると約10Lに設定できます。



取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

① フラッシュバルブ本体はしっかり取り付けられていますか？

↳ ⑥-1 - ②「給水管の接続」参照
③「バキュームブレーカーの取り付け」参照

② 操作弁部はしっかり取り付けられていますか？

↳ ⑥-2 - ④「操作弁部の取り付け」参照

水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

③ 止水栓部および各連結管部の水漏れはないですか？

↳ ⑥-1 - ②「給水管の接続」参照
⑥-1 - ③「バキュームブレーカーの取り付け」参照
⑥-2 - ④「操作弁部の取り付け」参照
⑥-3 - ⑤「連結管の取り付け」参照

流量の確認

洗浄水量が少ないときや、設定どおりの洗浄水量が出ない場合は次の項目を確認してください。

④ 止水栓は開いていますか？

↳ ⑧「施工後の調節」参照

⑤ 洗浄水量は正しく設定されていますか？

↳ ⑧「施工後の調節」参照

⑥ フィルターのごみ詰まりはないですか？

↳ フィルターの掃除をする。

